

日本に残っている唯一のトイレ付き4輪駆動の木造車

清水 治 写真 亀田泰武

JR 四国の多度津車両所に保存されていた口480型481号客車を紹介します。

この481号機は1906(明治39年)官鉄新橋工場で製造された4輪 2 軸二等の木造車両で定員24名、固定軸距は12 ft (3658mm)です。国産車として初めてのトイレ付きの車両です。高知県高岡郡佐川町出身の元宮内大臣田中光顕伯の功績をたたえ、1933(昭和8年)鉄道省から佐川町に寄贈され、青山文庫(現代の佐川文庫庫舎)で列車閲覧室として使用されていましたが、傷みがひどく1968年に多度津工場に移設、保管されました。1974(昭和49)年に復元し同工場で保管・展示され、1978(昭和53)年国鉄の準鉄道記念物に指定された、国内に残る唯一の4輪二等木製客車で非常に貴重な存在です。

2021年3月にJR 四国の協力により、53年ぶりに高知県高岡郡佐田町に戻り大事に保存されているようです。



写真1. 高知県佐田町の480型481号二等木製客車の保存場所



写真2、口481号客車の説明文



写真3、□481号車両の側面写真

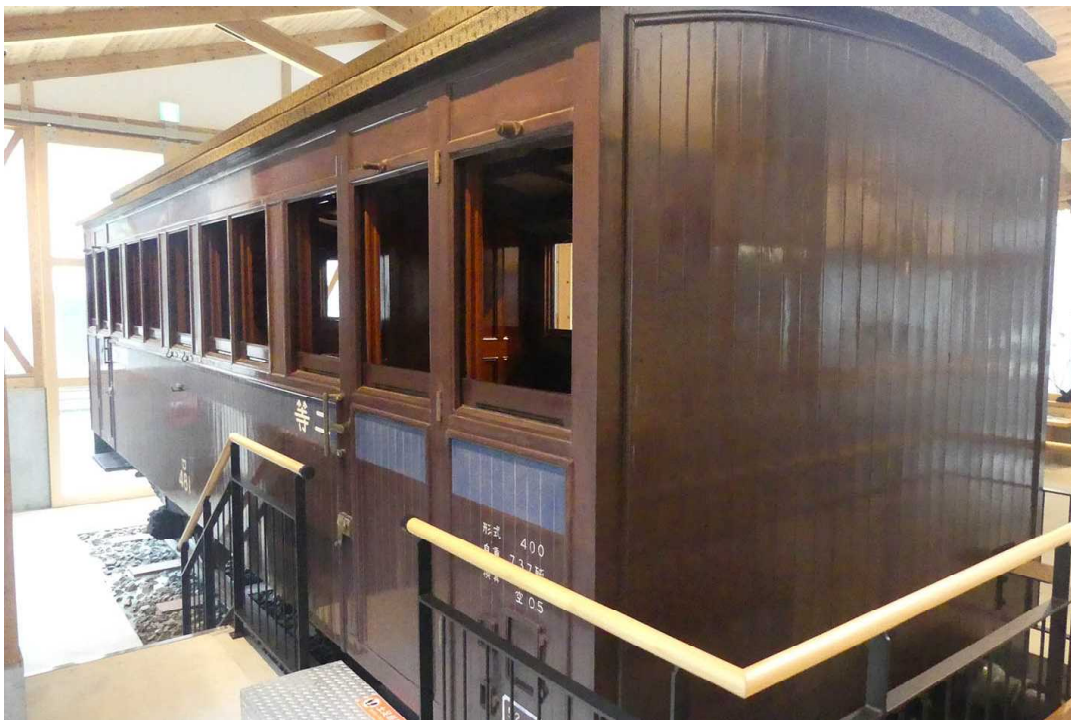


写真4. □481号車両の反対側



写真5、口481号車両の一軸台車の板バネ



写真6、口481号車両の内部座席



写真7、口481号車両の洗面所と座席室



写真8、口481号車両の中央に洗面所とトイレがあるようです。トイレ室には便器は取り外されているが、貴重な写真

明治 20 年代になり列車トイレの必要性が唱えられ、英国からの輸入車両をまねた車両が作られました。図 1 に大正 3 年度版に客車形式図情感に記載の国産第一号と思われるイロ 256 の 4 輪 2 軸の車両の図面ですが、明治 22 年に東海道線に英国からの輸入車両をまねて東京平岡工場で製造した車両でロ 480 型とよく似た構造です。

官鉄新橋工場は今の新橋駅あたりにあったようですが、大正 4 年 7 月 21 日に大井派出所汐留派出所となり大井派出所管轄になりましたが大正 12 年 12 月 10 日に廃止されました。

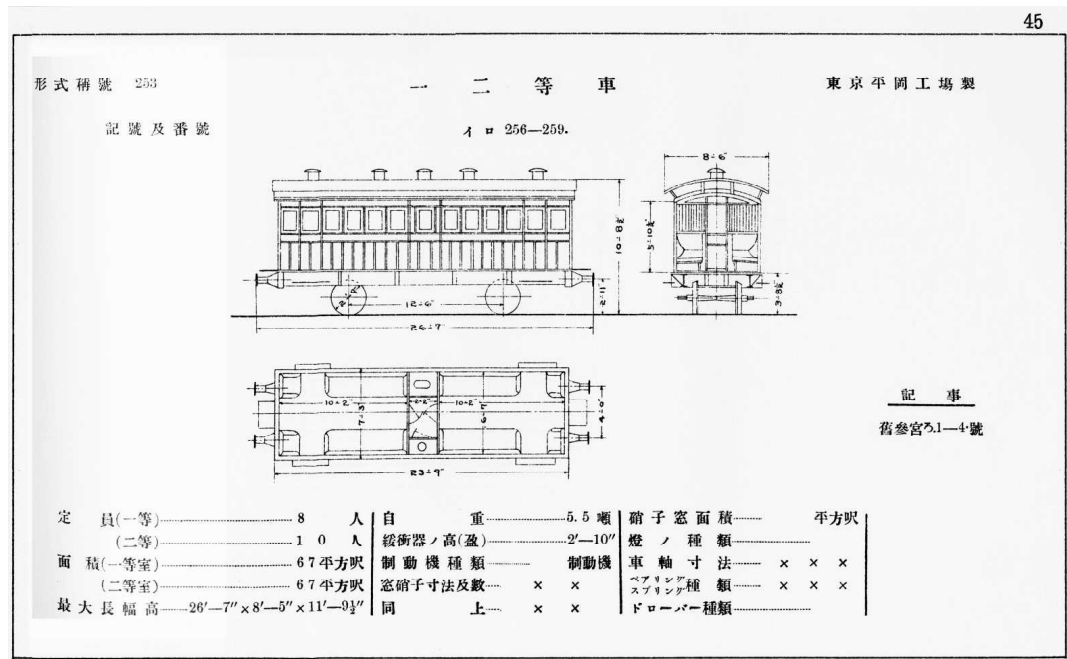


図1. 当時の 1, 2 等車両宇の図面 (1)

鉄道省工作局「客車形式図 下巻」には、ロ 481 の製作年として書かれている、明治 39 年以前製作となっている客車の図面で便所らしきものが表記されているものがいくつかみられます。(客車形式図 下巻はボギー車のみのようなのでロ 481 は掲載されていません)

図 2, 3, 4 に当時の車両の図面を示します。明治 22 年に東海道線に使われた、官設鉄道最初の便所付き車両は英国からの輸入車とされていますが、それと同じ形式で製造が英国と神戸工場製と併記されているものもあります。(コハ 6550-6553)おそらく、日本で同じものをコピーして内作したものかと思われます。また、関西鉄道から国有化に伴い組みこまれたコハ 6560-6563 は明治 30 年に関西鉄道株式会社四日市工場製と記載されていますが、図面では便所らしきものが記載されています。他の客車を見ますとホロハ 5742-5746 は製造年が明治 30 年、33 年ですが便所が図面に書かれています。ただこれは改造がはいっているので、改造で便所が取り付けられたのかも知れません。客車形式図(下巻)は 1925 年発行のもので、製造時から改造が色々行われているかと思えます

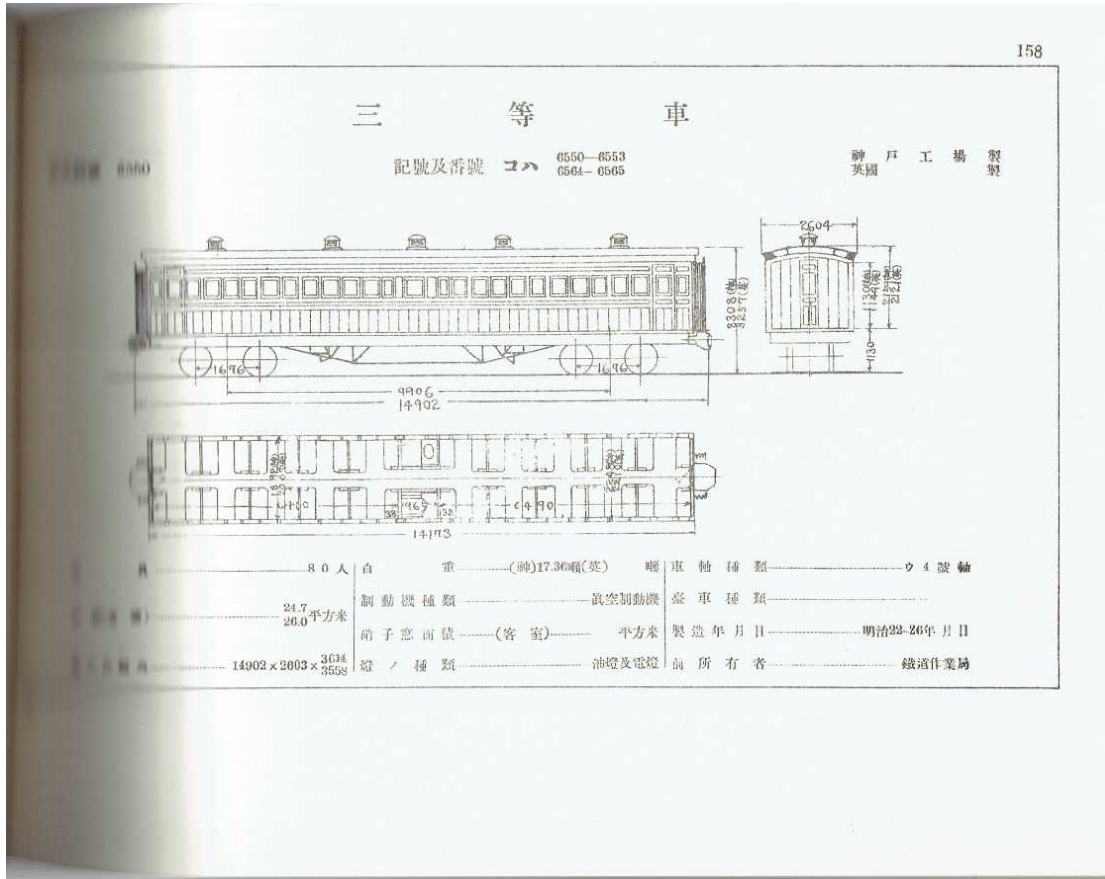


图2 三等車兩(明治22年)(2)

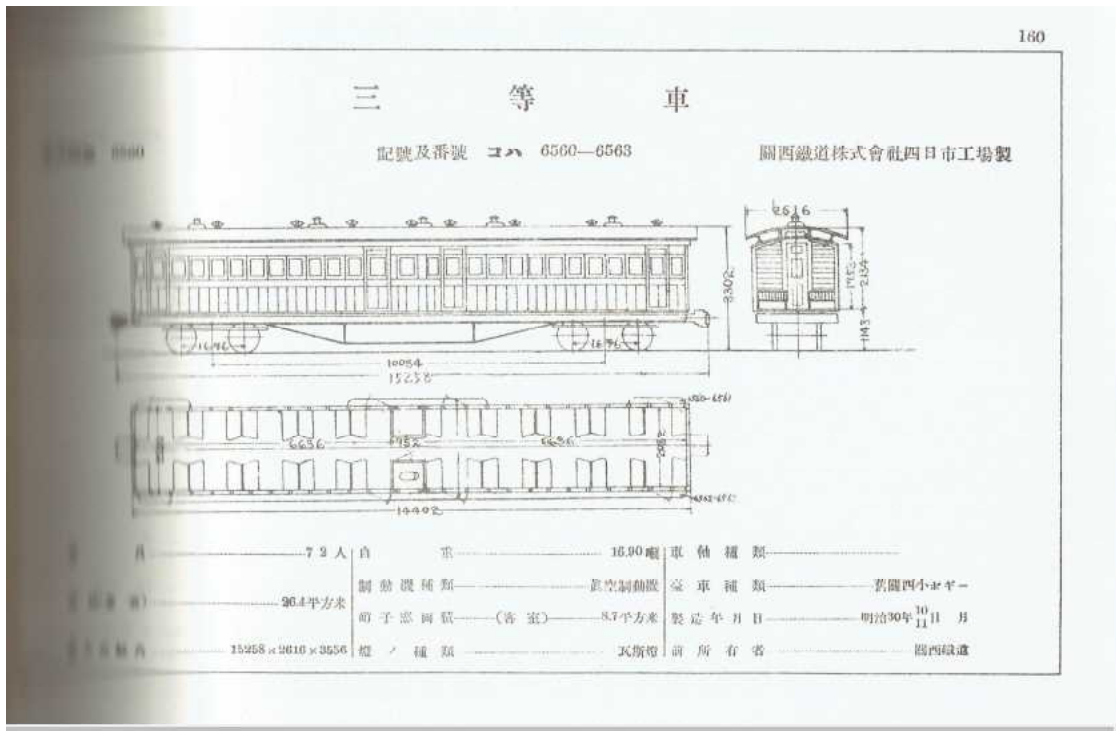


图3 三等車兩(明治20年)(2)

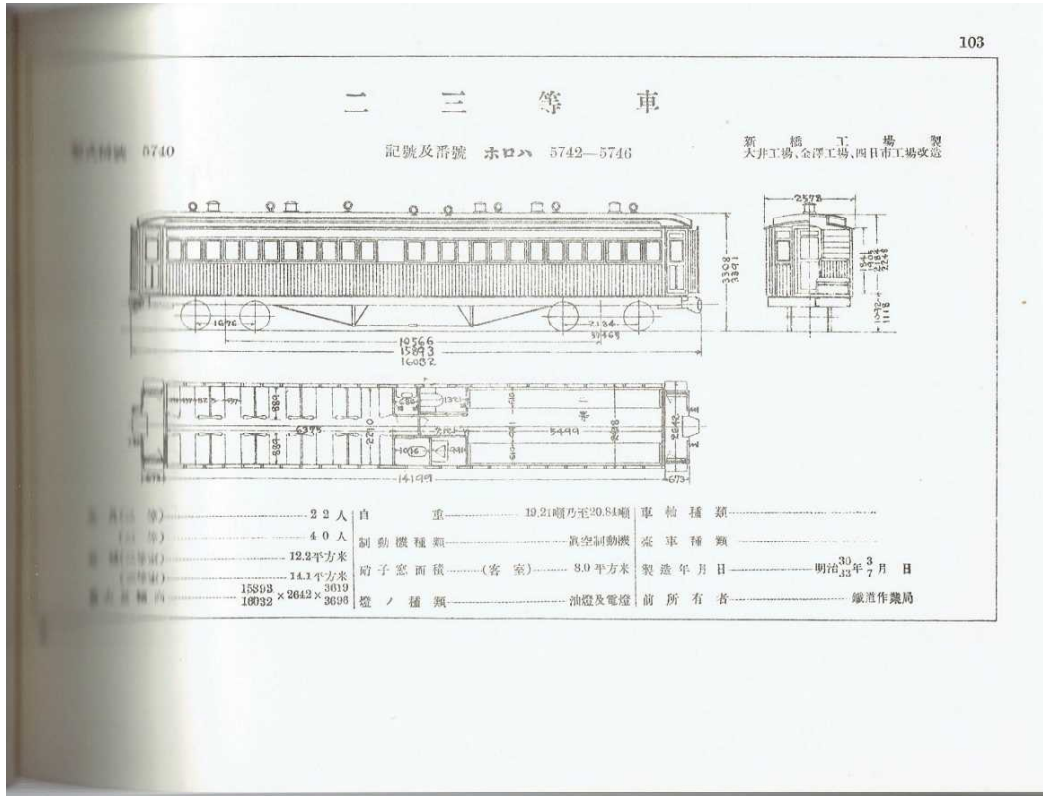


図4 二、三等車両(明治24年)(2)

ついでに当時の列車の和式トイレの図面を紹介しておきます。図5は大正時代の水洗式トイレで、手洗い水が汚物を流していたようです。

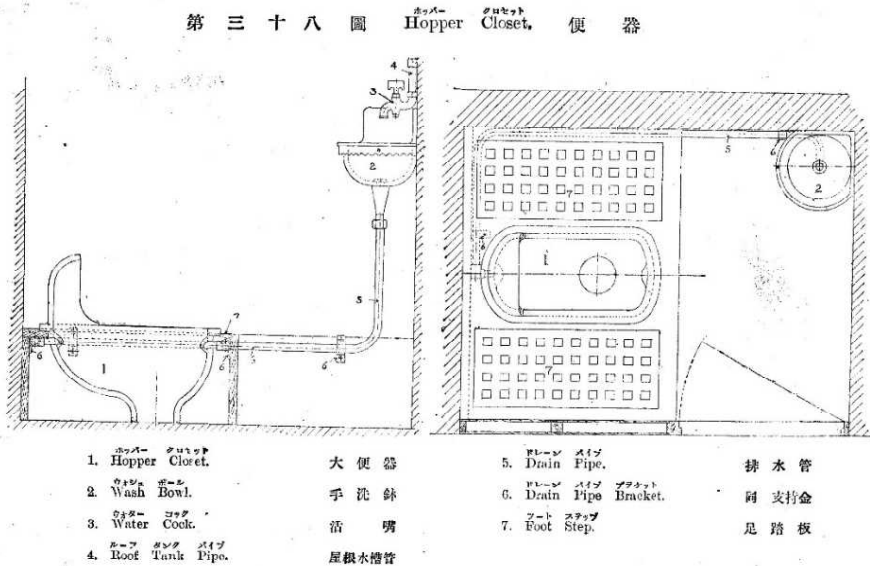
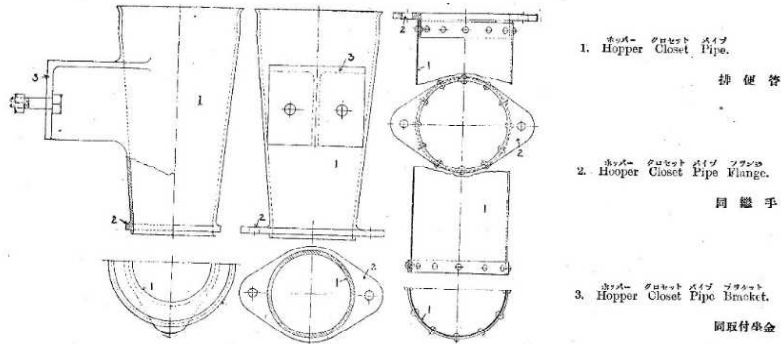


図5 大正時代の列車トイレ(3)

第三十九圖

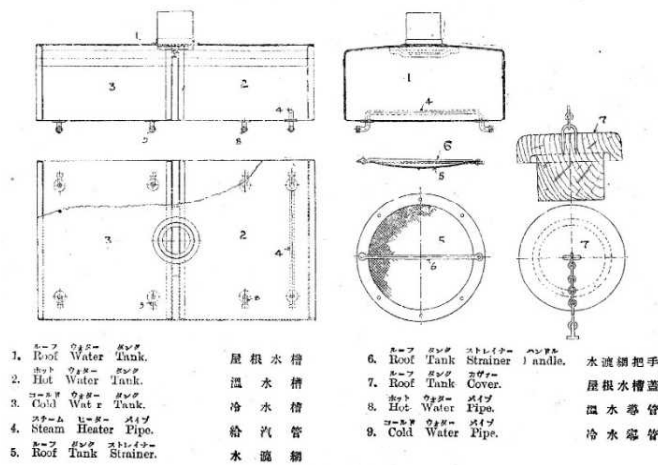
Hopper Closet Pipe. 排便管



—(40)—

図6 このトイレの汚物流し管で直接レールにむかって汚物を流しています。(3)

第四十圖 Roof Water Tank. 屋根水槽



—(41)—

図7 屋根上に取り付ける水タンクで、手洗いと汚物を流すための水を貯留するので車両の上部に取り付けられているのでしょう。(3)

引用文献

1. 大正5年発行 鉄道講習会発行「客貨車名称図鑑」
2. 鉄道省工作局「鉄道客車形式図 下巻」
3. 大正3年版 「客車形式図 上巻」